

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 三郎丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

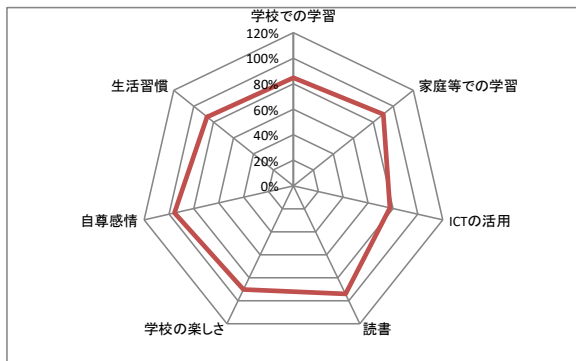
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は全国平均に比べて低く、問題に取り組み、解答しようという意欲は高い。 ・「話すこと・聞くこと」に課題がある。日頃から目的をもって考えを交流する意識が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題	
	努力が必要な問題	言葉の特徴や使い方に関する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は全国平均に比べて低く、問題に取り組み、解答しようという意欲は高い。 ・複数の事象から必要な情報を導き出して考える問題では、正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題	
	努力が必要な問題	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は全国平均に比べて低く、問題に取り組み、解答しようという意欲は高い。 ・「知識・技能」を問う問題に比べ、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	実験器具の名称を答える問題	
	努力が必要な問題	自分で発想した考えを検討、改善し、新たな自分の考えを記述する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・「人が困っている時は、進んで助けている」と回答した児童の割合は全国平均を大きく上回っている。本校で重点化して取り組んでいる、たてわり活動、委員会活動などがよい影響を及ぼしていると考えられる。	
・「人の役に立つ人間になりたい」の項目は、ほぼ全国平均と同じであるものの、「将来の夢や目標をもっていますか」の項目は全国平均を下回っている。さらにキャリア教育を充実させ、具体的な職業のイメージや目標をもたせるようにしたい。	
・「自分で学習の計画を立てること、平日や休日に学習すること」の割合が全国平均よりも低く課題である。家庭学習の取り組み方など再検討していく必要がある。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○ 焦点化された(主体的、対話的で深い学びを目指し、児童が自らの言葉でまとめや振り返りを書ける)指導の徹底 ・板書には必ず、まとめ・振り返りにつながるキーワードを残す。など、『学びの質を高める授業』づくり5つのポイント)を踏まえた授業の実施。 ・毎時間の学習に視点をもち、振り返りをする活動を取り入れ、自分の思いや考えをはっきりと発信する児童を育てる。
○ 学力向上のための特設時間の実施 ・チャレンジタイム(掃除時間後の15分間、担任外が加わり複数教師の指導で基礎的な問題を行う)を、全校一斉に実施。 ・算数道場(給食準備時間を利用し、課題等の終わっていない児童を児童支援加配と教務主任が指導する) ・ひまわり学習塾(週2回水曜日15:30~16:20、金曜日15:00~15:50)3年生希望者への学習指導を実施。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ ゲーム等をする時間が多く、自分で計画を立てて学習ができないという結果をふまえ、家庭学習の取り組み方の再検討に加え、1日の生活時間の計画を立て、実態を記録するなどの工夫をし生活習慣を整える。また、記録を振り返る時間を設け、自立に向けた生活習慣の改善を図る。
